

# 農政なら

編集・発行  
奈良県農業会議(奈良市登大路町・県庁内)  
TEL 0742-22-1101(内線5623~9)  
FAX 0742-24-8576

トピックス

## 2019年度全国農業委員会会長代表者集会が開催される ～意向把握と話し合いで進める農地利用の最適化に向けて～



令和元年11月28日（木） 東京都港区の「メルパルクホール」において、2019年度全国農業委員会会長代表者集会が開催されました。全国農業会議所の主催により、全国の市町村農業委員会会長ならびに都道府県農業会議役職員等約1600人が集い、本県からも19市町村から農業委員会長ほか41名が参加しました。

冒頭、全国農業会議所の二田孝治会長は、「関係機関との連携を一層強化して地域の話し合いを促し、意欲ある農業者が希望を持てる農業や農村を実現していかねばならない」と挨拶しました。

第1部の活動事例報告では、広島県三次市農委會長、宮城県角田市農委員會長職務代理と愛知県豊田市農委員長の3人から、「人・農地プラン」の実質化や農地利用

最適化に向けた農業委員会活動の報告を受けました。また、全国農業会議所専門相談員の澤畑佳夫氏により「人・農地プランの実質化を確実に進めるために」をテーマに記念講演が行われました。前職の農業委員会事務局長の経験から、地域での意見のとりまとめを行う場合のアドバイスなどを話されました。

第2部では、「新たな『食料・農業・農村基本計画』の策定等に向けた要請決議」を採択し、集会終了後、集会に参加した県下市町村農業委員会会長を中心に、県選出国會議員の代議士へ要請活動を行いました。



**郷土料理の伝承に向け調理実習**  
**女性委員として活動強化を目指すため**

なら農業委員会女性委員  
た。

た。

の会（壺井和子会長）は、12月11日、地域の郷土料理の伝承推進のための調理実習を開催しました。研修会には、県下農業委員会の女性委員等17名が参加しました。今回の取り組みは、食生活が多様化する中で、地域の郷土料理や伝統食等の食文化を大切にし、次の世代へ継承を図ることが必要であるとの観点から、今回は

め、餅米からヨモギやエビを混ぜ合わせた3色の餅が出来るまでを体験しました。また大鍋で、つきたての餅入りの田舎雑煮が炊き上がり、地元でとれた吐田郷米を焼き上げたご飯とともに

全国農業新聞は、農業委員会の組織情報誌で、全国農業会議所が発行しています。「農業委員会等に関する法律」の第6条第3項には農業委員会の情報提供活動が明記されていますので、「全国農業新聞」を活用して農業委員会業務と農業の動きを情報提供していきましょ

「全国農業委員会会長代表者集会」時にも、農業委員、農地利用最適化推進委員1人毎年2部以上の新規購読申し込みの確保するよう申し合わせが決議されました。全国農業新聞の読者を増やし、地域の農業者との絆づくりに務めましょう。

とから、田舎雑煮のつくりかたなど実践活動を通じたレシピ紹介も行われました。壺井会長が講師を務めた。

実習終了後も各委員間で地元で取り組まれる様々な活動の情報交換が行われました。商品開発が進む地元特産品なども紹介されました。事務局からは、1月20日に開催する女性委員の会の実務研修会への積極的な参加を呼びかけました。

りに取り組みました。また、正月を間近に控えていることを実践いただくようお願いしました。今後も女性委員の活動強化に向け取り組んでいきたい」と壇井会長は話されました。

全国農業新聞は、農業委員会の組織情報誌で、全国農業会議所が発行しています。「農業委員会等に関する法律」の第6条第3項には、農業委員会の情報提供活動が明記されていますので、『全国農業新聞』を活用して、農業委員会業務と農業の動きを情報提供していくまし

11月28日に開催された「全国農業委員会会長代表者集会」時にも、農業委員、農地利用最適化推進委員1人毎年2部以上の新規購読申し込みの確保するよう申し合せが決議されました。全国農業新聞の読者を増やし、地域の農業者との絆づくりに務めましょう。

農業委員会の「情報提供活動」

は、農業委員会が地域の農業振興を図ることや、農業の健全な発展に寄与するため求められる取り組みが規定されています。農業委員会自らが主体的に行動を起こしていくことが基本となる業務であり、農業委員会の「情報提供活動」もこの3項に規定されています。法改正により農業委員会が新たに求められることとなつた農地利用最適化業務は

情報提供活動なしでは成果を期し難いと考えられます。農業委員や農地利用最適化推進委員等農業委員会関係者が全力を挙げて取り組むことが必要不可欠です。

また、情報活動は、農業委員会の諸業務を的確に進め、実行ある取り組みとするための基礎的な役割を担っています。農業委員会の活性化の観点からもその重要性がさらに高まっているといえます。

全国農業新聞の読者を増やそう

全国農業新聞は、農業委員会の組織情報誌で、全国農業会議所が発行しています。「農業委員会等に関する法律」の第6条第3項には、農業委員会の情報提供活動が明記されていますので、『全国農業新聞』を活用して、農業委員会業務と農業の動きを情報提供していきましょう。

## 農業委員会の「情報提供活動」

農業委員会法6条3項には、農業委員会が地域の農業振興を図ることや、農業の健全な発展に寄与するため求められる取り組みが規定されています。農業委員会自らが主体的に行動を起こしていくことが基本となる業務であり、農業委員会の「情報提供活動」もこの3項に規定されています。新たに求められることとなる法改正により農業委員会が新たに求めされることとなつた農地利用最適化業務は、

情報提供活動なしでは成果を期し難いと考えられます。農業委員や農地利用最適化推進委員等農業委員会関係者が全力を挙げて取り組むことが必要不可欠です。

また、情報活動は、農業委員会の諸業務を的確に進め、実行ある取り組みとするための基礎的な役割を担っています。農業委員会の活性化の観点からもその重要性がさらに高まっている

# 農業法人1日就業体験（農業インターンシップ）in奈良を開催します

奈良県農業会議と奈良県農業法人協会は、令和2年2月16日に、宇陀市の「有限会社山口農園」を会場として「農業法人1日就業体験（農業インターンシップ）in奈良」を開催します。

近年、農業も就職先の選択肢の1つとして注目され、奈良県でも農業法人等への雇用就農者が増えています。その一方で、雇用就農希望者と農業現場での就業イメージのギャップも指摘されており、この課題の解決に向けた取り組みが必要です。この就業体験では、農業

を始めようとされる方を対象に、1日就業体験を通して農業法人での就職を具体的にイメージしてもらうことにより、県内農業法人等への就業を促すとともに、農業への理解を深めてもらうものです。

募集人数は15名で、定員になり次第締め切ります。参加経費は食事代等の実費として500円徴収します。

申し込み、お問い合わせは奈良県農業会議まで、TEL(0742-127-17419)まで。

## 2019年度 第2回「日本農業技術検定」が実施される

2019年度の第2回「日本農業技術検定」が、12月14日（土）に桜井市池之内「なら」と農の魅力創造国際大

学校」の会場で実施されました。

本農業技術検定」が、1級は1人（一般受験者）が1人）、2級は6人（うち

大学校関係が5人）、3級は6人（うち大学校関係が1人）の計13人から申し込みがあり、申し込みのあつた全員が受験しました。

この検定は、日本農業技術検定協会（事務局・一般社団法人全国農業会議所）により実施されているもので、1級は、農業の高度な知識・技術を習得している実践レベルで、農業一般として共通20問、「作物」「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問。五者択一のマークシート方式による計60問。2級は、農作物の栽培管理等

が可能な基本レベルで、農業一般として共通10問、作物「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問。五者択一のマークシート方式による計60問。2級は、農作物の栽培管理等

が可能な基本レベルで、農業一般として共通10問、作物「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問。五者択一のマークシート方式による計60問。2級は、農作物の栽培管理等

が可能な基本レベルで、農業一般として共通10問、作物「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問。五者択一のマークシート方式による計60問。2級は、農作物の栽培管理等

が可能な基本レベルで、農業一般として共通10問、作物「野菜」「花き」「果樹」「畜産」「食品」から1科目選択で40問。五者択一のマークシート方式による計60問。2級は、農作物の栽培管理等

（近畿農政局からの情報提供）

### 新たな食料・農業・農村基本計画に関して 国民の皆様から御意見・御要望を募集しています。

食料・農業・農村基本計画は、食料・農業・農村基本法に基づき、今後10年程度を見通した農政の中長期的なビジョンを示すもので、概ね5年ごとに見直しています。

今後、企画部会を開催し議論を進めていくこととしており、その検討に当たっては、透明で開かれたプロセスとする観点から、国民の皆様からの御意見・御要望を広く募集します。

御意見・御要望は、インターネットまたは、郵送により提出をお願いいたします。

・募集期間：令和元年9月6日（金）～令和2年2月末日 17:00必着  
(※郵送の場合は、当日消印有効)

・提出先：1. インターネットからの提出  
[http://www.maff.go.jp/j/keikaku/k\\_aratana/index.html](http://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/index.html)

2. 郵便による提出  
近畿農政局 企画調整室 食料・農業・農村基本計画 推進担当  
〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂町  
電話：075-414-9037(直通) FAX:075-414-9060

○お問合せ先：郵便による提出先と同じ

意見募集のHPへ



## ”農“へのメッセージ



やつて守っていくかが喫緊の課題となっています。

そんな中、本市北西部の丹生川左岸に位置する丹原地区において、

「農地中間管理機構関連農地整備事業」を関係機関、並びに地権者の皆様のご理解ご協力のもと実施する運びとなりました。

地区的農業は、兼業農家による水稲と特産品である柿の複合経営が主で、10aに満たない農地が大部分を占め、生産性が低く農業従事者の高齢化に伴い農地の維持が困難となっています。

この度の台風19号・21号により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞いを申し上げ、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

五條市では平成13年度に完了した国営総合農地開発事業により、既成畠も含め1,382haの樹園地が形成され、柿の収穫量が日本一となり、その事業効果により若い後継者が育ち、地域農業の牽引役となっています。

また、約30haの基盤整備を行つた山陰地区の農事組合法人「ゆめ野山」では、農地の大区画化・畠地化による高収益作物の栽培を推進し、労働時間の削減や、WCS、小麦、シソ等の米以外の作付けに取り組んでいます。

その一方で、本市においても農業従事者の高齢化や担い手不足は深刻化しており、今後農地をどう

五條市農業委員会

会長 新宅 一也

この度の台風19号・21号により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞いを申し上げ、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

五條市では平成13年度に完了した国営総合農地開発事業により、既成畠も含め1,382haの樹園地が形成され、柿の収穫量が日本一となり、その事業効果により若い後継者が育ち、地域農業の牽引役となっています。

また、約30haの基盤整備を行つた山陰地区の農事組合法人「ゆめ野山」では、農地の大区画化・畠地化による高収益作物の栽培を推進し、労働時間の削減や、WCS、小麦、シソ等の米以外の作付けに取り組んでいます。

その一方で、本市においても農業従事者の高齢化や担い手不足は深刻化しており、今後農地をどう

◎「家族経営協定」で新しい時代をひらく

・農業経営や暮らしについて話し合おう、

1月15～16日  
・奈良県農業委員会職員協議会  
現地研修会

1月20日  
・なら農業委員会女性委員の会

A4 12頁

2月3日

・常設審議委員会

2月16日

・農業法人1日就業体験（農業イ

ンターンシップ）in 奈良

2月21日

・農地中間管理事業推進農地利用最適化研修会

3月2日

・常設審議委員会

3月27日

・奈良県農業会議第8回理事会

4月27日

・農地中間管理事業等改正法によつて、農業委員会が取り組む「農地所有者等の農地利用意向の把握」と「地域での話し合い活動への参加」の2点が法定化されました。

◎2020年農業委員会活動記録セット

農地中間管理事業等改正法によつて、農業委員会が取り組む「農地所有者等の農地利用意向の把握」と「地域での話し合い活動への参加」の2点が法定化されました。

『記録簿』には、農地の集積・集約化、遊休農地の解消、新規就農参入の推進などの農地利用最適化活動のほか、総会・部会等への出席や農地の権利移動・転用の現地確認などを、簡潔に記録して、活動

## 農業会議だより

《県農業会議関係会議日程》

1月8日

・常設審議委員会

1月15～16日

・奈良県農業委員会職員協議会  
現地研修会

1月20日

・なら農業委員会女性委員の会

2月3日

・常設審議委員会

2月16日

・農業法人1日就業体験（農業イ

ンターンシップ）in 奈良

2月21日

・農地中間管理事業推進農地利用最適化研修会

3月2日

・常設審議委員会

3月27日

・奈良県農業会議第8回理事会

4月27日

・農地中間管理事業等改正法によつて、農業委員会が取り組む「農地所有者等の農地利用意向の把握」と「地域での話し合い活動への参加」の2点が法定化されました。

『記録簿』には、農地の集積・集約化、遊休農地の解消、新規就農参入の推進などの農地利用最適化活動のほか、総会・部会等への出席や農地の権利移動・転用の現地確認などを、簡潔に記録して、活動

あけましておめでとうございます

本年も農業会議の業務・運営に一層の御理解・御協力をお願いします

一般社団法人 奈良県農業会議  
役職員一同